

令和 6 年度

「運営に関する計画」
(最終評価)

大阪市立常盤幼稚園

令和 7 年 3 月

大阪市立常盤幼稚園 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- コロナ禍において「学びを止めない」ために大阪市就学前教育カリキュラムをふまえ、本園の教育課程を見直してきた。その中でも一人一人の子どもの実態に応じた保育を展開している教育の発信が、保護者の安心安全な子育てには欠かせないと感じている。引き続き、教育内容の発信を工夫し、一人一人の子どもの育ちを保護者と共に喜び合い、保護者が子育ての喜びを味わえるようにすることが、課題である。
- 子どもたちは体を動かして遊ぶことが好きであるが、しなやかな体の使い方やバランスをとるなどに課題が見られる。そのため、日々の遊びの中で十分に体を動かす気持ちよさを体験し、多様な動きを経験する中で調整力を育て、自ら体を動かそうとする意欲を高めていくようにする。また、基本的な生活習慣の形成において、生活に必要な習慣を身につけ、次第に見通しをもって行動できるようにすることが課題である。幼稚園は、それらを保護者と共に進めていくことが大切であると考えている。
- 感染症対策や危機管理意識を継続しながら、教育内容の在り方を工夫するためには、教職員が知識や知恵を出し合って協働していく必要がある。全教職員の意識の共有や共通理解を深め、具体的で細やかな取り組みをチームで行い、子どもの豊かな育ちにつなげていくことが重要であると考えている。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和 7 年度末の保護者アンケートにおける「子どもは、安心して幼稚園に通いながら、成長している」に対し「そう思う」「ややそう思う」と答える保護者の割合を 9 0 % 以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 7 年度末の保護者アンケートにおける「子どもは、自分の力で行動し、充実感を味わっている」に対し「そう思う」「ややそう思う」と答える保護者の割合を 9 0 % 以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和 7 年度末の保護者アンケートにおける「幼稚園は、教職員が一体となり、保護者や地域と連携しながら教育活動をすすめている」に対し「そう思う」「ややそう思う」と答える保護者の割合を 9 0 % 以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】**学校園の年度目標**

- 令和 6 年度末の保護者アンケートにおける「子どもは、安心して幼稚園に通いながら、成長している」に対し「そう思う」「ややそう思う」と答える保護者の割合を 8 5 % 以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】**学校園の年度目標**

- 令和 6 年度末の保護者アンケートにおける「子どもは、自分の力で行動し、充実感を味わっている」に対し「そう思う」「ややそう思う」と答える保護者の割合を 8 5 % 以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】**学校園の年度目標**

- 令和 6 年度末の保護者アンケートにおける「幼稚園は、教職員が一体となり、保護者や地域と連携しながら教育活動をすすめている」に対し「そう思う」「ややそう思う」と答える保護者の割合を 8 5 % 以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度の幼稚園運営全体を通し、目標達成に向けた3つの視点において成果が見られた。子ども一人一人の実態を把握し、豊かな経験を学びへとつなげていくことが個の育ちや教育成果に結びつき、家庭・地域とともに子どもの成長を喜び合うことができた。項目や重点の設定は子どもや園の実態に即し適切であった。次年度は、今年度の課題を受け、異校種間連携の在り方の検討や取組の工夫、全教職員の共通理解を深め、具体的できめ細やかな教育実践をチームで行い、子どもの豊かな育ちへとつなげたい。

| | | |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| 【安全・安心な教育の推進】 学校園の年度目標 ○令和6年度末の保護者アンケートにおける「子どもは、安心して幼稚園に通いながら、成長している」に対し「そう思う」「ややそう思う」と答える保護者の割合を85%以上にする。 | A |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|--|------|
| 取組内容①【②豊かな心の育成】 全教職員が全園児一人一人に関わり、子どもが自己肯定感をもち、安心して過ごせるような援助の方法を工夫する。 | A |
| 指標 <ul style="list-style-type: none"> ・情報交換しながらチーム保育を実践する。 ・保護者に保育の内容を理解していただくように週1回以上、子どもの様子をホームページに掲載したり、写真掲示をしたりする。 ・毎日、降園時に一人一人の保護者へ子どもの遊びの様子を伝えたり家庭での様子を聞きとったりする。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 以上のことから。2学期末の保護者アンケートでは、「そう思う」「ややそう思う」が99%と高評価を得ることができ、達成できたといえる。 <ul style="list-style-type: none"> ・保育後、子どもたちの姿や成長を職員室で伝え話し合うあうことで、今後の保育や、一人一人の関わり方への参考や学びの場となっている。教師同士がコミュニケーションを大切にしたチーム保育を意識していった。 ・季節の行事や、日頃の保育の様子などをホームページや写真掲示を通して、保護者に発信してきたことで、幼稚園の取組に関心を持ち、教育の理解、保護者の安心につながっていると思われる。（ホームページ：毎週1回以上、写真掲示：4月～12月） ・登園時、子どもたちへの視診と共に、体調や家庭での様子など、保護者から聞き取るようにした。保護者との信頼関係を築き、子どもが安心して過ごせるようになってきた。 ・毎日、降園時に全体への降園連絡と、各クラス担任から今日のクラスの活動や様子、子どもたちの姿を具体的に伝えた。製作したものは実物を見てもらうなどの工夫をした。保護者が子どもたちの姿を認めたり、ほめたりする様子が見られる。 ・劇遊びなど子どもたちとつくっていく過程を継続的に伝えていくことで当日の姿を理解していただくことができた。 | |

| 次年度への改善点 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 幼稚園教育の理解推進のため、園やクラスで行ったことを引き続きホームページや掲示を活用して、全教員が発信できるように、発信の研修を行っていく。・ 園やクラスでの遊びを通して、保護者に個々の様子を具体的に伝え、共通理解を図り、今後の保育に生かせるようにする。・ 行事毎に保護者アンケートをとっているが、フィードバックを個別にその内容について詳しく伝えるようにする。また、園の取り組みや大切にしていることをしっかり理解していただくように話す機会をより多く設けるようにする。 |

大阪市立常盤幼稚園 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

| | | |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| 【未来を切り拓く学力・体力の向上】 学校園の年度目標 ○令和 6 年度末の保護者アンケートにおける「子どもは、自分の力で行動し、充実感を味わっている」に対し「そう思う」「ややそう思う」と答える保護者の割合を 85%以上にする。 | A |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|--|------|
| 取組内容①【④誰一人取り残さない学力の向上】 子どもが主体的に活動できるよう、大阪市就学前教育カリキュラムを参考に教育課程を見直し、人と関わることが楽しいと思える感性を育む。 | A |
| 指標 <ul style="list-style-type: none"> ・学期に2回以上実践記録をとり教職員で学び合う機会として検討会を実施する。 ・年に3回以上、幼稚園教育要領の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や大阪市就学前教育カリキュラム「知・徳・体」の視点から子どもの育ちを発信する。 ・月に1回以上、異年齢で遊ぶ機会をつくる。 ・園内研究保育を学期に2回以上実施する。 | |
| 取組内容②【⑤健やかな体の育成】 子どもが基本的な生活習慣を身につけ、生涯にわたって健康で安全な生活を送ることができるよう、保護者と連携し、園生活を通して一人一人の発達に応じたしなやかな心と体を育成する。 | A |
| 指標 <ul style="list-style-type: none"> ・月に1回、子どもの発達段階や実態に応じた保健指導を行う。 ・月に1回、保健指導の内容で『がんばりひょう』を実施するとともに、その提出率を90%以上にする。 | |

| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 |
|---|
| 以上のことから、2学期末の保護者アンケートでは、「そう思う」「ややそう思う」が97%と高評価を得ることができ、達成できたといえる。 |
| 取組内容① <ul style="list-style-type: none"> ・5月と7月の計2回、第4ブロック研究主題である「主体的に活動する中で、人と関わることを楽しむ幼児を育てる」を基に各クラスの子どもの姿を記録し、分析した実践記録の検討会を行った。教師の教育的意図をもった働きはそれでよかったのか、また幼児の実態を踏まえより良い関わりはなかったか、など教職員同士で意見を出し合い、学びを深めることができた。 ・9月には、大阪市総合教育センターの教育指導員を招いて研究討議での指導を仰いだ。各担任がそれぞれ幼児の「人と関わることを楽しんでいる姿」の写真を持ち寄り、どのような育ちが見られたのか、今後どのような育ちを期待して教師が関わりかけるかなど意見を出し合った。今 |

後の展望も踏まえて話し合うことができ、教師の資質向上につながった。

- ・今年度は第4ブロック研究部が研究のまとめの年のため、研究成果発表内容や研究集録の内容を教職員で内容を再検討することで、改めて人と関わる中でどのような教師の働きかけが重要なのか、また人と関わることを楽しむ姿の要因は何なのかと探ることができた。
- ・学期末には、各遊びを通した「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や「知・徳・体」の視点からの子どもの育ちを写真と文字で示し、保護者向けに掲示した。また、その掲示とともに各クラスの保護者が一同に集まる場で担任が説明したことで、保護者への理解が当初より高まった。繰り返し、掲示と口頭で教育発信をしてきたことが保護者の教育への関心の高まりにつながる結果となった。
- ・月に1回誕生会の中で全園児がふれあいながら遊べる活動を取り入れ、友達の遊びを見たり、一緒に遊んだりし、子どもたち同士で遊びすすめるきっかけになっている。また園外保育前などには全園児でホールに集まり一緒に弁当を食べたり、1階の保育室やホールの好きな場所で遊べる機会を設けたりして、異年齢で触れ合える環境を準備したことで、異年齢の子どもたちにも関心をもったり、いたわりや憧れの気持ちをもつようになった。
- ・1学期に大阪市新任教員研修の一環として研究保育を実施した。新任教員に向けて何を伝え、何を学んでほしいかなど、何度も教職員で検討する過程の中で、教職員同士の学びや資質向上につながった。
- ・園内研究保育を実施後、教職員全員で検討会を行い、良かった点と改善すべき点について積極的に意見を出し合った。実際に保育をした教職員とともに、参観した教職員も自分事として、保育を考え、学ぶことができた。
- ・12月是大阪市立幼稚園教育研究会の実施する研究成果発表に全教職員が現地またはオンラインにて参加した。本園が所属する第4ブロックの研究内容のみならず、他ブロックの研究発表も通して子どもが主体的に活動するための環境や教師の働きかけを学ぶことができた。
- ・1月には、生活発表会当日までの過程の中で、劇遊びや楽器、歌を各クラスで見合う機会を多く設けた。他クラスの教職員の保育の進め方やよりよい遊びの流れを普段の生活の中から自然と見合えることで、子ども同士も刺激になり「自分ももっとこうしてみよう」と意欲につながったり、担任同士も「そんなやりかたもあるのか」と自身の保育力向上へとつながったりし、園内研究保育となった。
- ・2月に大阪市総合教育センターへ指導要請をし、園全体での保育力向上のための研究保育を実施した。これまでの遊びの流れを生かし、異年齢で関わる機会を設け、人と関わるのが楽しいと思える感性を育むための保育環境整備を学びあった。
- ・来年度の研究テーマを話し合ったり今年度の研究を振り返ったりすることで、自分のクラスの子どもの育ちを改めて再認識し、またその姿から次はどのような姿を願い保育を進めていくか考える機会となった。

取組内容②

- ・月に1回保健指導を行うことができた。

4月 手洗い・うがい・咀嚼（5歳児）

5月 熱中症予防

6月 歯みがき

7月 早寝・早起き・朝ごはん

8月 安全・清潔

9月 食育

10月 咀嚼・姿勢・生命（いのち）の安全教育

11月 体を動かす

12月 健口体操

1月 姿勢

2月 排便

子どもの実態や発達段階、気候等に応じて指導内容を検討し、写真や絵本、顎模型、大型歯ブラシ、体操の曲など、発達段階に応じた視覚物や教材を活用した保健指導を行った。様々な視覚物や教材を活用したことで、子どもが興味をもって話を聞くことがで

き、基本的な生活習慣が身に付きやすくなった。また、よくかんで食べる習慣を身に付けるため、5歳児は毎日の昼食の前に、当番の子どもが「かみかみ もぐもぐ よくかんで食べましょう！」などと咀嚼についての声掛けを行う取組を4月より行った。保護者へも咀嚼の重要性を伝えるため、咀嚼チェックガムを用いた『咀嚼力チェック』を5歳児親子で実施したりした。また、3・4歳児親子には、『親子歯みがき指導』を行い、保護者講話と歯垢染色や仕上げみがきを実施した。

全国の学校園において『生命（いのち）の安全教育』を推進していることを背景に、大阪市幼稚園教育研究会 保健研究部にて令和6年度より『生命（いのち）の安全教育を通して、自分の体に関心をもち大切にしようとする心を育む』ことを研究主題に研究がはじまった。10月には絵本『だいじだいじどーこだ？』『ふわふわとちくちく』を用いて生命（いのち）の安全教育を行い、子どもたちにも分かりやすい指導に努めた。

子どもたちが基本的な生活習慣を身に付けること、また自分自身や友達を大切にしようとする気持ちを育むことができるよう、様々な取組や保健指導を行った。それにより、少しずつ基本的な生活習慣が身についてきた様子がみられた。

保健指導後は、家庭でも指導内容に取り組む『がんばりひょう』を実施し、幼稚園と家庭の両面から基本的な生活習慣の定着を図った。

提出率 92.0%（2月28日現在）

『がんばりひょう』に取り組んでもらえる工夫として、ごほうびシールを作成し『がんばりひょう』に取り組んだ子どもが自分でごほうびシールを貼れるようにしたり、保護者へ個別に声掛けをしたりした。それにより、後日家庭で取り組み提出してくれた家庭もあった。

次年度への改善点

- ① 今年度は教職員で保育を見合ったり、また、普段の会話の中から今後の保育へ生かせるようにお互いの感じたことを伝え合ったりする機会を多くとることができた。来年度は、教職員が学び合う機会を意図的に作り、子どもたちが主体的に活動しながら充実感を味わうことができるようにしていきたい。また、全教職員が同じ方向を向いて取組を進め、教職員の資質向上をどのようにしていくかも明確にしていきたい。
- ② 保健指導や『がんばりひょう』について、子どもや保護者が積極的に取り組むことができるよう、子どもたちの実態や生活に合った内容や指導方法を検討していきたい。

大阪市立常盤幼稚園 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

| | | |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|--|------|
| 【学びを支える教育環境の充実】 学校園の年度目標 ○令和 6 年度末の保護者アンケートにおける「幼稚園は、教職員が一体となり、保護者や地域と連携しながら教育活動をすすめている」に対し「そう思う」「ややそう思う」と答える保護者の割合を 85%以上にする。 | A |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|--|------|
| 取組内容①【⑨家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】 異校種との交流や地域との連携を深め、身近な人に親しみながら地域への関心を高めたり、小学校生活への円滑な接続につなげたりする。 指標 ・学期に 2 回以上、様々な方法で地域や学校園、保育所等と交流をする。 | A |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| 2 学期末の保護者アンケートでは、「そう思う」「ややそう思う」が 98%と高評価を得ることができ、達成できたといえる。 1 学期から地域や異校種の交流を積極的に取り入れ、地域に親しみの気持ちを持ち、色々な人との関りを楽しんできた。 ・月 1 ～ 2 回、地域の未就園児を対象に園庭開放を実施し、年下の友達への思いやりの気持ちが育っている。 ・4、5 月には、近隣散歩をし、区役所の安全パトロールの方にも来ていただき、交通ルールについて分かりやすく教えてもらった。また、地域の方に、たくさん飾ってあるこいのぼりを見せていただき、伝統文化にも親しんだ。 ・6 月には、おそうじデーを実施した。5 歳児が地域の方とペアになって、近所の公園を掃除し、終了後は、園に来ていただき、お礼に歌をうたい感謝の気持ちを伝えた。12 月には、4 歳児が引き継いだ。 ・工芸高校の生徒が幼稚園を訪問して子どもたちと遊び、その触れ合いの中で、園の生活や遊びを知り、子どもたちのために机や棚など、幼稚園希望もふまえ、必要な遊具や用具を作成するという取組を実施した。生徒が考えた作品のプレゼンテーションを行い、子どもたちも興味をもっていた。プレゼンテーション後、作成したものに、子どもたちは、大変驚き、喜び、遊びや生活の中で活用している。 ・親子まつりでは、保護者の方が工夫を凝らし、子どもたちが楽しめるようにたくさんのお店を準備してくださり、親子で店をまわり、やりとりを楽しんだ。翌日には、5 歳児がお店屋さんとお客さんに分かれて楽しんだり、3 歳児を招いてやりとりを楽しんだりした。 ・小学校と合同で避難訓練を行い、校舎 3 階に避難した。小学生の避難の様子を見たり、校長先生からの話を聞いたり、小学校への親しみや憧れの気持ちをもつ機会になった。 | |

また、こども博覧会前日に1年生の先生方と校長先生が、子どもたちの作品や絵を見に来てくださった。園の実態などを知っていただく良い機会になった。これが円滑な接続のきっかけになればと思う。

- ・ 9月に三明保育園の5歳児を園に招待し、一緒に遊ぶ機会をもった。地域の同じ5歳児と触れ合うことができ、歌を聞きあったり、一緒にふれあい遊びを楽しんだりし、親しみの気持ちをもてた。また、11月には大阪市立幼稚園音楽会に参加し、歴史ある中央公会堂で、7園の子どもたちと、一緒に気持ちをひとつにし、声を合わせて歌うことを楽しんだ。11月23日、あべの文化祭では、大きなホールで歌う機会をいただき5歳児は、聞いてもらうことを楽しむようになってきた。
- ・ 11、12、3月に、あべのハルカスのクリスマスツリー点灯式やハッピーバースデーイベントなどに4・5歳児が参加した。お客さんの前で歌を披露したり、いちご狩りをさせてもらったりし、地域に親しむ良い機会になった。
- ・ 12月に常盤小学校、1月に苗代小学校と交流会を実施した。それぞれの小学校に行き、手作りのおもちゃで遊んだり、一緒にダンスやゲームをしたりし、小学生に親しみ、進学への期待を膨らます機会になった。

次年度への改善点

- ・ 今後も、様々な地域の方との交流を通して、子どもたちとともに保護者の方にも地域への親しみの気持ちを育んでいけるように取り組みたい。
- ・ 幼稚園での生活や遊びで得た学びを、小学校へつないでいけるような具体的な手立てを、阿倍野区の小学校の実態を把握しながら、小学校の先生方と共に考えていきたい。